

『AORN JOURNAL日本語版』を活用するヒント!

『AORNガイドライン』

現場でどう生かす?



2024年8月現在、全4号を発行している『AORN JOURNAL日本語版』より、日本の手術現場にどう活用していけるかをディスカッションしていただきます。

『AORN JOURNAL日本語版』は、AORN JOURNAL^{※1}を日本語訳として発行した雑誌となります。

※1『AORN JOURNAL』は、周術期看護の分野にて投稿された論文の内容を査定されている看護雑誌であり、AORN^{※2}の公式雑誌です。

※2米国周術期看護学会

開催日時

2024年9月7日(土) 14:00~16:00

参加費

無料 会場にて参加される方の交通費や宿泊費は自己負担となりますのでご了承ください

開催場所

ホギメディカル本社 (抽選100名様) & ZOOMオンライン

登壇者

【ファシリテーター】

長野保健医療大学
看護学部 看護学科
講師

ミルズ しげ子 先生

【パネリスト】

順天堂大学医学部附属順天堂医院
B棟手術室
看護師長 手術看護認定看護師

前田 浩 先生

【講師】

自治医科大学看護学部
准教授
手術看護認定看護師

古島 幸江 先生

【パネリスト】

国立病院機構長崎医療センター
手術看護認定看護師

原 健太朗 先生

抽選で100名様ご招待

※詳細は下記をご参照ください

プログラム内容

- ◆日本手術看護学会とAORNの関わり
- ◆AORN JOURNAL日本語版の記事の選択について
- ◆日本の手術現場でAORN JOURNALをどう活用するか?



① URLもしくはQRコードから特設ページにアクセスし、必要事項をご入力の上お申し込みください。

特設ページ <https://www.hogy.co.jp/seminar/index.html>

会場参加申し込み締め切り日(抽選):8月12日(月) ZOOM申し込み締め切り日:9月6日(金)

② ご登録いただいたメールアドレスへ会場ご参加およびご視聴のご案内をお送りいたします。

③ 当日はメールをご確認の上、ご参加ください。

◆会場ご参加のお申込みが多い場合は、弊社にて抽選させていただきますのでお申込みいただいても会場でご参加いただけないことがあります(オンラインの参加は可能)。会場ご参加の抽選結果につきましては8/19(月)にメールでご案内させていただきます。

◆メールアドレスの設定により、メールが届かない場合がございます。その際は、迷惑メール設定等のご確認をお願いいたします。

◆当日までにURLが届かない場合やセミナーにアクセスできない場合がございましたら、下記電話番号へご連絡ください。

HOGYオンラインセミナー事務局TEL:03-6229-1324

◆セミナー終了後にアンケートに回答いただいた方へ当日資料(一部抜粋)やセミナー内のご質問と回答を配信させていただきます。

◆落選の方、当日参加できなかった場合も後日動画配信いたしますので、お気軽にお申し込みください。



お申し込み方法

・本オンラインセミナーは医療従事者の方を対象としております。一般の方のお申し込みは、ご遠慮ください。
・同業者の方からのお申し込みはお断りする場合がございます。

医療の現場に、未来に、安全を
HOGY®

主催:株式会社ホギメディカル

患者予後をよりよい結果に導くために



本来の看護ケア業務に集中できる環境づくりを考える

教育することが
目的になつていませんか？

人によって教え方や内容が
異なつていませんか？

経験や技術のばらつきを
感じていませんか？

看護ケアの状況や 満足度はいかがですか？ 複数選択可

58

16

7

5

個人の経験年数でばらつきがある…58票

- ケアにおける情報が欲しい……………16票
全体的な改善が必要……………7票
十分なケアができる……………5票

ホギメディカル看護ケアについてのアンケート（2020年）
【対象】全国の急性期病院 【回答数】38施設 67名



出典：大住力「ディズニーに学ぶホスピタリティ」
『Nursing BUSINESS』2016,vol.10,no.11, p.16をもとに編集部で作成

誰もが同じようにできる仕組みを標準化して継続する

業務プロセスの最適化

必要材料を使いやすい形態であらかじめセットすることで、展開時間を短縮し、準備漏れ・紛失・遺残を防止します。



イージーフィット/プレミアムキット使用例

再現性の高いコンテンツでの反復学習

写真、動画を活用して情報共有の質を高め、確かなイメージを持って手術本番に臨めます。



OPERA-Note画面イメージ



手術看護の安全な業務化と、 最適なパフォーマンスを患者さんのために